



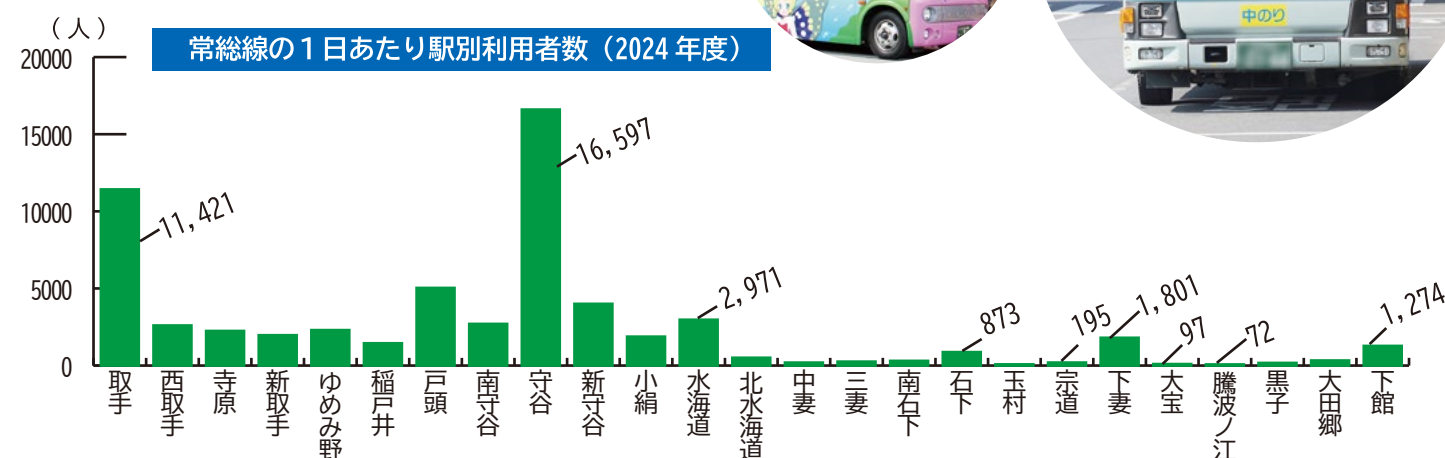
移動の自由が広がる、豊かな暮らし

「行きたいとき」に「行きたい場所へ」車の運転に不安がある方でも、公共交通なら天候や時間帯を気にせず移動できます。外出先での飲酒も安心です。



家族の負担軽減と経済的メリット

- 送迎のストレスから解放
家族の運転に頼らず移動できるため、双方の時間的・精神的な負担が軽減されます。
- 家計にやさしい
車の維持費（燃料費・保険・駐車場代など）と比べ、公共交通は低コスト。定期券や割引制度を活用すれば、さらに経済的です。



公共交通を守り、持続可能な地域の未来を

公共交通は、私たちの生活を支える「社会の基盤」であり、次世代に引き継ぐべき大切な財産です。車社会の便利さに押されがちですが、環境への配慮、高齢者の社会参加支援としての役割など、その価値はますます高まっています。一度失われた交通網は簡単には取り戻せません。公共交通は単なる移動手段ではなく、「誰もが安心して移動できる社会」を築くための不可欠な財産です。この街の公共交通を次世代へつなぐため、日常の選択肢に加えてみませんか？

公共交通が支える「地域の安心」

誰もが暮らしやすいまちづくり

公共交通は、不特定多数の人が利用できる交通機関であり、住民の日常生活を支える重要な役割を担っています。言わば「社会の基盤」です。公共交通が衰退すると、交通空白地帯が発生し、高齢者の生活の移動が困難になったり、地域の生活基盤が脅かされるなど、様々な課題が生じます。公共交通は、移動手段の提供にとどまらず、地域の持続可能性を支えるための重要なインフラです。



高齢者の健康

公共交通を使った外出は、自然と歩く機会が増えるなど、適度な運動ができ、運動不足解消につながります。



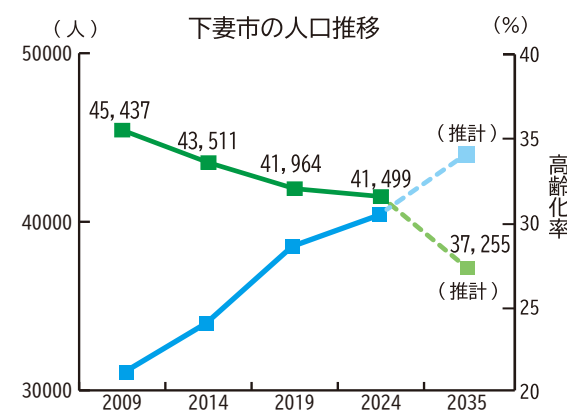
2

地域交通の未来を考える

地域の足を次世代へつなぐために



公共交通は単なる移動手段ではなく、高齢者や学生、車を持たない方々にとって「生活の命綱」です。しかし、利用者が減ってしまうと事業者の経営状況が悪化し、路線存続の危機に陥ることも考えられます。今回の特集では、高齢社会を迎える今だからこそ、地域の大切な足となる公共交通について考えてみたいと思います。



※2035年は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」による推計人口

常総線は、JR常磐線の取手駅からつくばエクスプレス（TX）の守谷駅を経由し、下妻駅、JR水戸線の下館駅までを結ぶ全長約51・1kmの地域の重要な鉄道です。通勤・通学、通院、買い物など日常の移動を支える「生活の足」常総線ですが、TXが開業し都心までのアクセスが各段に良くなったものの、最寄りのTX駅やJR駅へ自家用車で直接向かう利用が増えたことにより、水海道駅以北の利用者の低迷が目立ちます。

常総線の現状

地方では、車で出かけることがあたり前の上に、人口減少も進んでいることから、公共交通の利用者は減少傾向にあると言われています。特に下妻市を含む茨城県は自宅から目的地まで自家用車で快適に移動できる場所であることから、その傾向は顕著です。

最近、公共交通機関を利用しましたか？

地域の公共交通機関 利用者はなぜ減少？

車社会の進展

道路事情がよく、目的地までドア・ツー・ドアで移動できるため車移動の利便性が高い。



目的地の変化（駅前機能の相対的低下）

買い物・サービスの重心が駅周辺からロードサイドへ移ったことによる需要の変化



人口減少と少子高齢化

- ・若年人口の減少による公共交通利用者の減少
- ・高齢化により運転免許の返納者が増えるが、高齢者の短距離移動に対応した公共交通機関の使いやすさが課題

